

人生ハンド仏句

第4号

H. 14. 7. 1

編集・発行
山成寺
玉蓮部
真成部
編集

苦しむこそその人の志意でふる

人生、長く生きると、色々な事を体験します。生活苦、労働、病苦、臨死、縁深い人との別れとか、事故、大恥をかくとか、いじめられたとか、その時は確かに苦しい。自殺したいと思ったりもします。この私達の住んでいる娑婆世界は、苦の娑婆と釈尊が言われたように、楽しい事は少なく、苦のほうが多い気がします。楽ではない。しかし、それは不幸とは違うのです。普通に考えれば幸福な人生でないとお思になるでしょう。それは凡夫の考えでして、苦しみは過ぎてみると、財産と

か、歓喜に変わるので。苦しむのはイヤな事ですが、その体験が大切な事で、あとに必ず生きるのです。皆すばらしい体験の数々なのです。

日蓮聖人は報恩鈔に、

『極楽百年の修行は穢土一日の功に及ばず、正像二千年の

弘通は末法の一時に劣る』
と言われています。

極楽の生活は良いのでしようが、修行にはならない。極楽で百年修行しても、私達の生活の一日の修行に及ばないので

す。私達はすごい修行をしているのです。価値の有る生活をして

続けています。楽な生活をして、イヤな事もなくて、心配もなく、平凡で一生何も起きず暮らせたなら、幸福だと思いませんか。それが幸福なら人生と大抵の人は思っているのです。それは、幻の幸福を追って生きています。

私達は臨終すると霊界へ行きます。そして又、生を受けて娑婆世界に生まれてきます。その繰り返しなのですが、なぜ行ったり来たりするかと言うと、

魂の成長をし「けたいからなのです。私達は皆仏の子なのです。子供が仏になるには、体が大きくなるだけではなれないのです。修行をして、魂が成長して始めて立派な仏になります。ですから長い年月がかかります。生死のくり返しの中に成長して行って、いつしか仏にな

るのです。それ故に、平凡で偶然にうまくいって何も起こらず楽な人生を送っても、この世では幸福だと思っても、あの世では評価が違います。死んで霊界へ行って私は楽な人生を送りましたなんて言っても、魂の成長がちつともないじゃないか、人生百年何をしてきたのかと反省して、喜んで満足できないと思います。この世で考えている事と臨終してから考える事は評価が違います。臨終の事を習うとはそういう事なのです。

(次号へつづく)

住職 谷川 寛俊